

入選

作文部門

小学校高学年の部

なくてはならない下水道

富士市立伝法小学校 四年 石川 実怜

四年生の社会の授業で、「水はどこから」という授業をやりました。その授業の中で担任の先生が、「雨や川の水はタダなのに、どうして水道にはお金がかかるのかな？」

と言いました。するとみんなが、「水をきれいにするためのお金じゃない？」

と言いました。私は気になって、家に帰るとお母さんにたのんで、水道料金の紙を見せてもらいました。紙には「水道使用水量」と「下水道使用水量」という二つに分けられて料金が書かれていました。そして、どちらも使用量は三・八³m³なのに、下水道の方が料金が高かったのです。私は（ふしぎだな。）と思いました。そして、どうやって下水をきれいにしているのか気になって、くわしく調べてみることにしました。

学校でもらった『水をきれいにするはなし』と、図書館で借りた『下水道の秘密』を読むと、いろいろなことがわかりました。

まず、下水道管は地面に人間の血管のようにはりめぐらされています。つまり家の数だけ下水道管があるのです。家から出た時は、一〇cmほどの太さだけど、たくさん家から下水が集まってだんだん太

くなっています。下水は、下ってばかりだとどんどん深くなってしまうので、「ポンプ」を使って上に押し上げられて、また下がってというくり返しをしながら下水処理場に運ばれます。

下水道管から下水処理場に来ると、大きなごみやしずんだ砂を取りのぞく「沈砂池」ゆっくり水を流しながら細かいごみをしずめる「最初沈殿池」活性汚泥というび生物のかたまりに下水の汚れを食べてもらう「反応タンク」というふうに進んでいきます。反応タンクを通った水は、「最終沈殿池」に進みます。最終沈殿池では、汚れを食べて重くなったび生物が3〜4時間かけてしずんでいきます。ここまでするともう魚が住めるくらいきれいになっています。でも、さらに海や川にもどうしても大じょうぶか検査するそうです。

このように、たくさんさんの時間や手間をかけて海や川にもどせるように水をきれいにしているのは、すごく大変そうだなと思いました。たくさんのお金がかかるのもわかります。でも、しつかりきれいにしないと、生きものにもえいきょうするから、最後までチェックするんだなと思いました。『下水道の秘密』には、昔、まだ下水道が整備されていなかったときに、工場や家庭から出た汚水が川や海に流れてしまい、魚が住めなくなってしまうと書いてありました。また、給食の牛乳1パック分をそのまま流すと、魚が住めるぐらいいきれいな水にするには、お風呂一〇杯分の水が必要になると書かれています。（え！そんなに？）と思ってびっくりしました。やっぱり下水道はなくてはならないものだなと

思いました。

私たちの使う水は循環しています。私たちが使った水が下水処理場できれいにされて海や川にもどされ、それがしよう発して雲になり、雨が降って地下にしみこみ、その地下水をくみあげてきれいにし、また家庭や学校の水道に送られる、ということが繰り返されているのです。川や海、雨がもとになっている学校の家庭の水は、（雨は何回もふるんだからなくならない。）と思っていたけれど、考えて大切に使わないといつかはなくなってしまうかもしれないと知りました。むだに使ったり汚したりしないように、これから心がけていきたいと思いました。